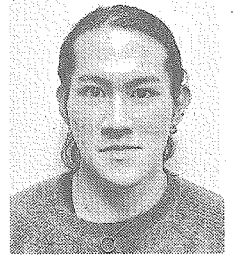


学生と教員の見方



【アピールポイント】
イタリア留学で語学とデザインを学び、大学の卒業制作として木更津の街づくりの企画に携わる。筋トレが趣味です。

【学生の見方&考え方】
(4年 檜山侑輝)

私は、4年生を対象とした「社会問題探求プログラム」を通して木更津市について調査研究を行い、この地域における人口増加の維持について研究した。

私が注目したのは、アクアラインの影響により空き地・空き家が拡大している木更津駅周辺と、日本中で進んでいる高齢化問題だ。この二つの問題へのアプローチが人口増加維持のカギになると考え、この二つのポイントを押さえた街づくりの方法を模索した。

アクアラインと木更津市の街づくり

したい。高齢者を集積させるとは、高齢者向けケアサービスを提供する供給側の移動コストを低下させ、効率的なサービス提供が可能になる。また、集積により元々高齢者が居住していた家が空き家に市外から来た若者に住んでもらうことで、街の新陳代謝を促すことができる。

ある。では、高齢化問題にはどのように取り組むことができるのだろうか。檜山君の提案は、高齢者向けサービスの供給を効率化することを提案するものである。高齢者サービスを効率的に供給することが出来れば、木更津市の財政負担は軽くなる。問題は、それを如何に実現するかという点だが、彼の提案はJR木更津駅周辺に高齢者を集積させるという、非常に興味深いものである。JR木更津駅は、かつては木更津市の中心であり、多くの商店や住宅が集積していたため、交通インフラが整っている。しかし、モーターゼーションが進んだ

人口増加を維持するには

空き家活用と高齢者施設集積

に市外から来た若者に住んでもらうことで、街の新陳代謝を促すことができる。次に、現在人通りの少ないJR木更津駅周辺の利活用は、先ほど述べた高齢者を集積させるための受け入れ先として利用することを提案したい。なぜなら、駅

現在では、空洞化が顕著に進み、空き家・空き地・空き店舗が目立っている。街づくりでは、JR木更津駅前とその周辺をかつてのように賑やかな場所にしたいと考えると、現在の木更津はアクアラインの開通により人口の集積エリアが変化し始めている。檜山君はこの点を踏まえ、駅前を依然と同じようにするのではなく、そのエリアに高齢者の集積を促すという点だが、彼らの居住していた住宅を中古住宅として利用しつつ、転入者の住居を確保するということ、鳥を狙ったものである。

【教員による展開】
木更津市が今後も成長していくためには、人口増加を継続させることおよび高齢化問題に対応することで、

直接促すものではないが、高齢者問題というも一つの重要な課題を解決させ、人口の流入も促進させるといって側面を持ち合わせ